

## 寒水会・伊藤長七研究の記録（第二版）

春山明哲(諏訪清陵 68 回生)

はじめに

「寒水会」は、旧制諏訪中学・諏訪清陵高等学校の第一校歌「東に高き」と、旧制府立五中・東京都立小石川高等学校の校歌がともに伊藤長七の作詞になる、という縁で生まれた(注)。その発端は、2001(平成 13)年 9 月に発行された『東京清陵会だより』第 12 号で「特集 寒水・伊藤長七の足跡を訪ねて」が組まれたこと、あわせて 10 月 19 日に開催された東京清陵会定期総会・懇親会で、伊藤長七の作品「小諸を去る辞」が伊藤ひろこ(長七の孫)により朗読されたことである(いずれも当番幹事 68 回生の企画による)。

(注)その後、両校とも中高一貫校となり、第一校歌「東に高き」は諏訪清陵高校附属中学校の校歌ともなった。また、都立小石川高校は、現在東京都立小石川中等教育学校となり、校歌も継承されている。なお、紫友同窓会は旧制から現在にいたる同校の同窓会である。

「特集 寒水・伊藤長七の足跡を訪ねて」作成にいたる過程で、清陵 OB、小石川 OB、伊藤家、小諸の関係者のつながりが生じ、以後 2019 年にいたるまで、足掛け 20 年に及ぶ「寒水会」の活動が続いた。その活動の核にあったのは、教育者伊藤長七の事蹟と生涯を探究し、近代日本の歴史の中に位置づけたい、という清陵・小石川 OB 有志の共通の思いであった。「寒水」とは伊藤長七の号であり(一説に諏訪湖を意味するという)、研究及び関連する活動をいつのころからか「寒水会」の名称で呼ぶようになった。ここでは、一括して「寒水会」の活動と呼ぶ。なお、伊藤長七が諏訪にいたころから、友人達が寒水会という名の集まりを持っていたようである。由緒ある名称ということになる。

以下、寒水会の活動経過の概要を、伊藤長七研究を中心に記述し、合わせてその活動の過程で作成された資料を提示することにより、この 20 年の記録としたい。「寒水会・伊藤長七研究の記録」と題する由縁である。作成された資料の名称は、関係年表中に記述するとともに、「伊藤長七研究関係資料」としてリスト化したので、今後の研究の参考になれば幸いである。なお、本稿において伊藤長七を長七または寒水とも称すること、敬称は省略することを諒とされたい。

また、関連して、寒水会の活動及び伊藤長七の生涯と事蹟については、中村喜一(小石川 OB)の運営する「按針亭」ホームページ、及び小石川・紫友同窓会のサイトとリンクさせていただいた。謝意を表したい。

「寒水会の活動 第 1 期 2001～2008 年」

2001(平成 13)年 『東京清陵会だより』第 12 号「特集 寒水・伊藤長七の足跡を訪ねて」  
刊行。小林盛男「第一校歌「東に高き」の作詞者 伊藤長七の生涯」、粕谷一希(小石川

OB)「特別寄稿 伊藤長七と府立五中」を掲載。東京清陵会総会・懇親会、伊藤ひろこ朗読「小諸を去る辞」。

2002(平成 14)年 矢崎秀彦『寒水 伊藤長七伝』(鳥影社)刊行。

2003(平成 15)年 小石川高校創立 85 周年記念、矢崎秀彦「小石川特別賞」受賞・

2007(平成 19)年 6 月 9 日 「伊藤長七アーカイブス記念フォーラム」(長野県立歴史館) 伊藤長七関係資料が伊藤家から長野県立歴史館に寄託されたことを記念、千曲市の長野県立歴史館で第 1 回の「伊藤長七フォーラム」を開催。翌 6 月 10 日、関係者有志が小諸善光寺の伊藤寒水碑を見学。

記念記念フォーラムの写真①～④写真提供・中村喜一(小石川 OB) リンク: 中村喜一「按針亭ホームページ」「寒水・伊藤長七」のコーナーより。

①粕谷一希・記念講演「天性の教育者 伊藤長七」

②矢崎秀彦インタビュー(小林盛男)

③伊藤ひろこ朗読「心は駆ける五大州」(小林盛男作)

④小諸善光寺「伊藤寒水碑」前にて。小諸寒水会、実行委員会有志一同(6 月 10 日)

2007(平成 19)年 10 月 6 日 第 15 回記念東京校歌祭(日比谷公会堂)で、清陵 OB が「東に高さ」を歌う。

2008(平成 20)年 6 月 7～8 日 フォーラム 1 周年記念、有志が小諸・諏訪を訪問、頌徳碑や木村岳風墓の前で、校歌を歌う。

前述したように、2001 年東京清陵会での「伊藤長七イベント」を発端として、翌年に諏訪中学 OB の矢崎秀彦さんが『寒水 伊藤長七伝』を上梓されたこと、伊藤家に保存されてきた「伊藤長七関係資料」が長野県立歴史館に寄託されたことを契機として、2007 年に「伊藤長七アーカイブス記念フォーラム」が開催された。

この 2007 年の秋、第 15 回記念東京校歌祭(日比谷公会堂)において、小石川のご好意により、小石川に割り当てられた持ち時間の一部を清陵に割愛していただき、清陵 OB 有志 20 名余が校歌「東に高さ」を歌った。翌 2008 年 6 月 7～8 日、フォーラム 1 周年を記念、有志が小諸・諏訪を訪問、頌徳碑や木村岳風墓の前で、校歌を歌った。

「寒水会の活動 第 2 期 2009～2012 年」

2009 年 12 月～2012 年 3 月 『現代教育観』を読む会。12 回開催。

伊藤長七の代表作である『現代教育観』の読書会。長七の教育観を知るとともに、近代日本の教育史における位置づけ、現代的意義などを考える場とした。担当を決め、朗読・解説・討論を行った。東京朝日新聞連載の記事と単行本化されたものとの比較、ルソーの『エミール』に見られる教育思想、明治以来の近代日本の学校制度なども調査した。

「寒水会の活動 第 3 期 2013～2019 年」

2013年8月～2018年12月 「寒水・伊藤長七研究会」、41回開催。

2018年7月14～15日 長野県立歴史館において、伊藤長七関係文書の調査。

2019年3月16日 「第2回伊藤長七研究フォーラム」開催(於東洋大学)

第3期は『現代教育観』の「深読み」ステージとして、以下のような各種の調査研究を行った。

- ①「小諸を去る辞」の長七自筆「墨書草稿」と、長野師範学校の雑誌『学友』及び信濃教育会の雑誌『信濃教育』に掲載された活字版との詳細な比較の上で、語句の注釈を付加した「確定版」を作成。
- ②伊藤長七の全著作の調査と「目録(未定稿)」作成。
- ③矢崎秀彦『寒水伊藤長七伝』人物索引の作成。
- ④長七の交友関係・周辺人物の調査研究により「伊藤長七を巡る人々100人」等を作成。
- ⑤長野県立歴史館における伊藤長七関係文書の調査。
- ⑥「伊藤長七略年表」の作成。

特に、人物研究においては、長七に関する新しい伝記的事実、人間関係のネットワークを調査し、長七の思想、歴史上の位置などの研究を進めた。

折から、2018年は1918年(大正7年)に創立された東京府立五中の創立100周年にあたることから、東京都立小石川中等教育学校及び紫友同窓会においては各種の記念事業が行われた。第2回目の伊藤長七研究フォーラムは、小石川100周年記念事業のひとつとしての位置付けのもとに、東洋大学の高大連携プログラムとして、さらに諏訪清陵同窓会及び東京清陵会の連携協力もあり、多数の参加者を得て開催された。

2019年3月16日、東洋大学で開催された「第2回伊藤長七研究フォーラム」のプログラムは、以下のとおりである。

基調報告「伊藤長七の教育思想と現代、寒水会の活動経過」(春山明哲)、朗読「長七さんからの手紙」(伊藤ひろこ)、琵琶歌「嗚呼伊藤長七先生：木村岳風謹作」(藤下隆水)、パネルディスカッション「伊藤長七の教育思想と現代」司会：古山光久、パネリスト：青山侑、栗原卯田子、森健、守矢早苗、校歌披露(小石川・清陵卒業生有志)

寒水会の今後については、若い世代へのバトンタッチによる調査研究の進展、伊藤長七の思想と人物に関する知識と情報の一般社会における理解の普及などが、これまでの研究参加者の共通認識となっているようであるが、まだ確たるものではない。伊藤長七の存在に新しい光があてられることを願っている。

#### [伊藤長七関係・研究資料リスト]

- (1) 『東京清陵会だより』第12号、2001年9月20日

「特集 寒水・伊藤長七の足跡を訪ねて」。小林盛男「第一校歌「東に高き」の作詞者

- 伊藤長七の生涯」、粕谷一希「特別寄稿 伊藤長七と府立五中」
- (2) 矢崎秀彦『寒水 伊藤長七伝』鳥影社、2002年12月
  - (3) 伊藤長七「小諸を去る辞」の「草稿」の復刻と注釈付きの『確定版』（寒水会作成）  
「小諸を去る辞」の「墨書草稿」、『学友』・『信濃教育』版との比較・校訂による。
  - (4) 矢崎秀彦『寒水伊藤長七伝』人物索引(寒水会作成)
  - (5) 「伊藤長七著作目録(未定稿)」(春山明哲作成)  
収録データは、『教育研究』を中心に雑誌16タイトル、論文・記事の合計件数は235件、図書4点(うち1点が復刻)。期間は、明治35年4月、伊藤長七が高等師範学校に入学した翌年から、昭和4年12月、死去の前年までの28年間に及ぶ
  - (6) 矢崎秀彦『寒水伊藤長七伝』の人物索引(未定稿)(寒水会作成)
  - (7) 「伊藤長七を巡る100人リスト」(伊藤長七の交友関係・周辺人物の研究)(寒水会作成)
  - (8) 「寒水・伊藤長七略年譜」(春山明哲作成)
  - (9) 俵一雄「伊藤長七と花子」『紫友同窓会報』第44号、2016年7月25日

\*\*\*\*\*

[参考附録]

以下の資料は、研究会に提出した春山作成のものであるが、寒水会の共有データとして保存し、希望者にはデータを提供してもよいと考えており、提供方法等を検討の上、上記のリストに追加する予定である。

2017年11月25日、伊藤長七研究会(第30回) 「春山明哲作成資料リスト」

- (1) 「伊藤長七の著作に関する調査結果について－『教育研究』等の雑誌を中心に－」  
2013年10月20日 『現代教育観』を読み進める会(第2回)
- (2) 「伊藤長七の著作調査(続)と『教育研究』掲載文献の分類案」  
2013年12月23日 『現代教育観』を読み進める会(第3回)
- (3) 「「明治教育の思ひ出」について」  
2014年4月29日 伊藤長七研究会(第5回)
- (4) 「「小諸を去る辞」について 付：島崎藤村との関係」  
2014年7月12日 伊藤長七研究会(第6回)
- (5) 「現代教育観・再考－『東京朝日新聞』連載の背景、夏目漱石と伊藤長七の関係について(メモ)」  
2014年10月11日 伊藤長七研究会(第8回)
- (6) 「伊藤長七著作目録(稿)」(2015年2月19日現在)
- (7) 「伊藤長七研究・覚書」  
2015年2月28日 清陵勉強会第150回記念講演 「第一校歌「東に高き」の作詞者寒水・伊藤長七の生涯と仕事－信州との関係を中心に－」
- (8) 「これまでの活動経過、および伊藤長七関係写真リスト」

2015年2月28日 清陵勉強会第150回記念講演・報告用参考資料

(9) 「伊藤長七と後藤新平の関係について(メモ) 付：白樺派と信濃教育」

2016年7月18日 伊藤長七研究会(第21回)

【伊藤長七の関係・周辺人物の調査】

(10) 「「伊藤長七年表」の追加・訂正データについて」

2017年1月21日 伊藤長七研究会(第24回)